

〔Aグループ〕 テーマ:統廃合せずに現学校数を維持

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

	小学校	中学校
校数	5校	2校
全校人数	112~176人	余目中328人 立川中67人
学年学級数	ほぼ1学級	余目中4学級 立川中1学級
1学級人数	15~30人	余目30~40人 立川16~28人
学校所在地	現在地	現在地
校舎について	一小・二小・三小は 改築 立小・四小は 長寿命化 約60億 <small>※解体費は含まず</small>	現在の校舎を利用 長寿命化 (余中15.5億 立中7.5億) 約23億
	約83億円 実質町負担 約30~65%	
バス通学	通年運行9台 + 冬季運行7台 児童生徒の約 14%	児童生徒の約 41% <small>※R2年度人数で試算</small>
	約5,000万円	

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

	ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1 庄内町の良さを守れる。地域、学区とのつながりを大切にできる	
	2 少人数ならではの教育、地域の教材や人材を活かし、特化した教育ができる	
	3 話し合いがスムーズに進む。	
課題	1 改築と維持の費用が膨大 費用を抑えるため設備を節約せざるを得ない	・施設の複合化や今ある施設を最大限活かすことで経費を抑える必要あり
	2 小学校は改築される学区と長寿命化して現校舎を使う学区とが生じ不平等感がある	
	3 中学校の規模がアンバランス 現在の各校の課題が改善されない (余目: 中1ギャップ 立川: 部活動選択肢)	・余目地域の小中連携を進める ・部活動の在り方を変える必要あり
	4 将来的に児童数が減少し、複式を避けて統合した場合、借金だけが残る可能性がある	・見通しと納得が必要

3. その他考えられるオプション等

- ①立川地域の小中一貫校

〔Bグループ〕 テーマ:小学校 1 校と中学校 1 校への統合

1. イメージする学校のすがた（人数は小学校 6 年後、中学校 10 年後の見込みで試算）

	小学校	中学校
校数	1 校	1 校
全校人数	719 人	395 人
学年学級数	3～4 学級	4 学級
1 学級人数	25～33 人	25～33 人
学校所在地	未定	（余目）※校舎規模から
校舎について	1 校を新築 約 33 億 ※解体費・土地代は含まず	現在の校舎を利用 長寿命化 約 15 億 ※解体費は含まず
	約 49 億円 実質町負担 約20~40%	
バス通学 (小学校所在地を、役場付近と仮定して試算)	通年運行 12 台 + 冬季運行 10 台 児童生徒の約37% 児童生徒の約47% ※R2年度人数で試算	
	約 6,900 万円	

2. この案の特徴（特に際立つ良さ・課題）

	ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1 小中連携しやすい。	
	2 子どもたちが町全体をよく知る	
	3 切磋琢磨する環境、クラス替えができる	
	4 費用が少なく済み、充実した施設ができる	
	5 すべての小学生が新しい校舎で学べる、どの地区にも学校が残らないという点で平等感がある	
課題	1 立川地域の子どもの通学距離、時間が長くなるという点で不平等感がある	<ul style="list-style-type: none"> 途中でトイレ休憩をとる バスの中で有意義な活動(英会話・読み聞かせ等)をする
	2 バス通学の子どもが増え、体が弱くなる	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画に体力づくりの対策を
	3 地域の拠点がなくなり、地域とのつながりが薄れる	<ul style="list-style-type: none"> 学校で意識して地域の学習をする。(地区ごとの活動の時間を設ける等) 放課後活動や学童は地区に帰す
	4 最大の規模で設計するため、数年後に普通教室が空いていく可能性がある。	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持った設計

3. その他考えられるオプション等

- 学校以外の地域の拠点を設け、連携して子どもを育てる。
放課後は地域（高齢者の方々など）で子ども達を預かる。(学童保育・放課後こども教室)
学校では意識して地域の学習をする。(週に 1～2 時間地域に分かれて学習や活動する等)

〔Cグループ〕 テーマ:小学校を2校に統合① ※中学校については別に考える

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

		小学校	
校数	2校		
全校人数	立小 112人	一小+二小+三小+四小 607人	
学年学級数	1学級	3~4学級 (全22学級)	
1学級人数	14~28人	25~30人	
学校所在地	立川小	未定	
校舎について	現在の校舎を長寿命化 約9億	1校を新築 約31億 <small>※解体費・土地代は含まず</small>	
	約40億円 <small>実質町負担20~40%</small>	+ 中学校16億または23億 実質町負担20~27%	
バス通学 <small>(余目の統合小は、 役場付近で試算)</small>	通年運行10台 児童生徒の約27%	+	冬季運行11台 児童生徒の約41% <small>※R2年度人数で試算</small>
	約6,600万円		

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

☆小規模校と中規模校のよさと課題が混在する。立川地域の住民の希望が重要。

	ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1 立川地域に学校が残り(旧立川町が学区)、旧町の文化を継承できる	
	2 現在の中学校区となり、地域住民の抵抗感が少ない	
	3 改築の費用は若干軽減できる	
	4 1校統合に比べ立谷沢地区の通学負担が軽減	
課題	1 立川小のみ古い規準の学校という点で不平等感がある	・リフォームして差を少なくする(費用は増となる)
	2 2校の規模がアンバランス。(立川はやや少な過ぎ、余目は多過ぎ)	・特色ある学校経営と、地域の理解が必要
	3 余目地域では、拠点としての学校がなくなり、地域とのつながりが薄れる	・学校で意識して地域の学習をする。(地区ごとの活動の時間を設ける等) ・放課後活動や学童は地区に帰す
	4 立小が将来的に統合するなら長寿命化にかかる費用が無駄になる。(統合後学校がなくなっても借金を返し続けなければならない可能性)	・見通しと納得が必要

3. その他考えられるオプション等

- ① 中学校はAの2校、Bの1校のどちらかをとる。
- ② 中学校2校の場合、立川小中を一貫校にするオプションもあり。
- ③ 将来児童数が減少したら、複式にならないよう1校に統合というオプションもあり。

〔Dグループ〕 テーマ:小学校を2校に統合② ※中学校については別に考える

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

		小学校	
校数	2校		
全校人数	立小+四小 227人	一小+二小+三小 492人	
学年学級数	1~2学級 (全9学級)	2~3学級 (全17学級)	
1学級人数	16~34人	28~33人	
学校所在地	立川小または四小 (立小で試算)	未定	
校舎について	現在の校舎を長寿命化 約9億 <small>※解体費は含まず</small>	1校を新築 約26億 <small>※解体費・土地代は含まず</small>	
	約35億円 + 中学校16億または23億 実質町負担約20~40% 実質町負担20~27%		
バス通学 バス通学 (余目地区の統合 小は役場付近と して試算)	通年運行10台 児童生徒の約27%	+	冬季運行11台 児童生徒の約41% <small>※R2年度人数で試算</small>
	約6,600万円		

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

★数合わせとしては利点があるが、総合的にメリットが少ない案

		ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1	学年2~3学級が多く、人数バランスがよい。	
	2	改築の費用は多少軽減できる	
	3	1校統合に比べ立谷沢地区の通学負担が軽減	
課題	1	余目一~三学区は課題がほぼ解消され、新校舎で学べるのに対し、余四立川は数年で1学級となり、課題が改善されない。不平等感大きい。	・住民の希望と納得が必要
	2	統合される側の学区の不満が大きい。	
	3	余四立川は学区が旧町とも現学区とも異なる線引きで、地域としてまとまりが得られにくい。	

3. その他考えられるオプション等

- ① 中学校はAの2校、Bの1校のどちらかをとる。
- ② 中学校2校の場合、立川小中を一貫校にするオプションもあり。
- ③ 将来児童数が減少したら、複式にならないよう1校に統合というオプションもあり。

[Eグループ] テーマ:小学校を3校に統合

※中学校については別に考える

1. イメージする学校のすがた (人数は小学校6年後、中学校10年後の見込みで試算)

		小学校		
校数	3校			
全校人数	立小 112人	四小 115人	一小+二小+三小 492人	
学年学級数	1学級	1学級	2~3学級 (全17学級)	
1学級人数	14~28人	16~26人	28~33人	
学校所在地	現在の位置		未定	
校舎について	現在の校舎を長寿命化 約17億 <small>※解体費は含まず</small>		1校を新築 約26億 <small>※解体費は含まず</small>	
	約43億円 実質町負担 20~40%		+ 中学校16億または23億 実質町負担 20~27%	
バス通学 (余目地区の統合 小は役場付近と して試算)	通年運行10台 児童生徒の約19%		+ 冬季運行9台 児童生徒の約39%	
	約6,000万円		※R2年度人数で試算	
※中学校含む (中2校で試算)				

2. この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

		ポイント	課題解決のための工夫
良さ	1	改築の費用は若干軽減できる	
	2	立谷沢地区の通学負担が軽減	
	3	余目四学区の不満が少ない可能性がある	※地域住民全体の希望が必要
課題	1	余目一~三学区は課題がほぼ解消され、新校舎で学べるのに対し、余四立川は1学級のまま。不平等感がある。	
	2	A案ほどではないが、費用負担が大きい。	
	3	将来的に統合するなら無駄が大きい。 (統合後も借金を返し続けなければならない)	・見通しと納得が必要

3. その他考えられるオプション等

- ① 中学校はAの2校、Bの1校のどちらかをとる。
- ② 中学校2校の場合、立川小中を一貫校にするオプションもあり。
- ③ 将来児童数が減少したら、複式にならないよう1校に合併というオプションもあり。